

作成日 2007年6月27日

作成者 一級建築士事務所

確認日 1900年1月0日

確認者 1900/1/0

(1) 建物概要

建物名称	(仮称)アメニティ山科駅前	敷地面積	1,436 m ²	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建物用途	集合住宅	建築面積	828 m ²	
建設地	京都府京都市	延床面積	5,937 m ²	
気候区分	地域区分IV	階数	地上11F	
地域・地区	1種住居地域・商業地域・準防火地域	構造	RC造	
竣工年	2008年12月 予定	平均居住人員	232 人	
		年間使用時間	8,760 時間/年	

(2-1) 環境性能評価結果 (バーチャート)

注1

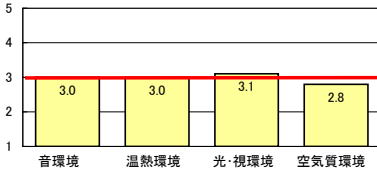
Q 建築物の環境品質・性能 (居住環境のアメニティを向上させる性能評価)

SQ= 2.6

Q-1 室内環境

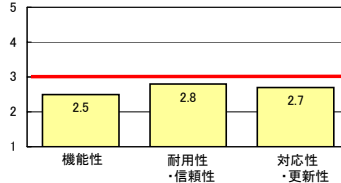
スコア(評価点):

SQ1 = 2.9



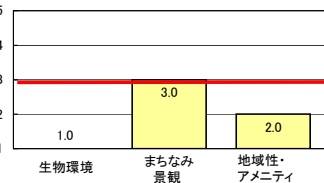
Q-2 サービス性能

SQ2 = 2.6



Q-3 室外環境 (敷地内)

SQ3 = 2.1



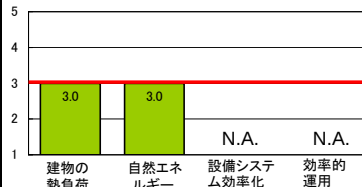
LR 建築物の環境負荷低減性 (環境負荷を低減させる性能評価)

SLR= 2.7

LR-1 エネルギー

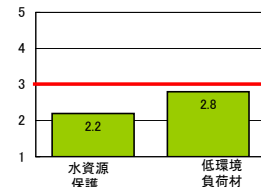
スコア(評価点):

SLR1 = 3.0



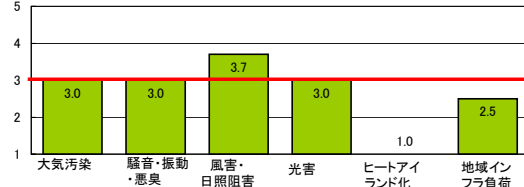
LR-2 資源・マテリアル

SLR2 = 2.7



LR-3 敷地外環境

SLR3 = 2.3



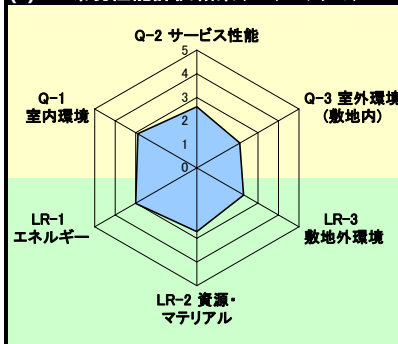
(2-2) 環境性能評価結果 (レーダーチャート)

注1

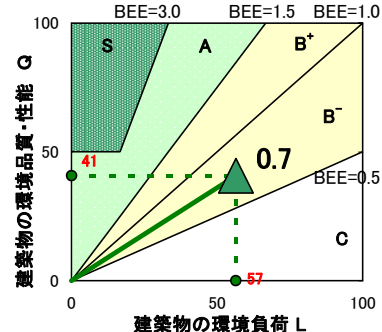
(2-3) 環境性能効率

BEE

注2



$$\begin{aligned} BEE &= \frac{\text{建築物の環境品質・性能 } Q}{\text{建築物の環境負荷 } L} \\ &= \frac{25 \times (SQ - 1)}{25 \times (5 - SLR)} \\ &= \frac{40.7}{56.5} = 0.7 \end{aligned}$$



(3) 建築物の総合的な環境性能とは別枠の重要評価項目

注3

(3-1) 建築物の代表的な環境負荷に関する定量的な評価指標

<実施設計段階、竣工段階で詳細な評価を行う場合に記入>

年間延床面積あたり指標	人・時間あたり指標	年間延床面積あたり削減量	削減率 %	0	10	20	30	40	50 %
運用エネルギー消費量	MJ/年m ²	MJ/人時	MJ/年m ²						
運用CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /年m ²	kg-CO ₂ /人時	kg-CO ₂ /年m ²						
水消費量	m ³ /年m ²	m ³ /人時	m ³ /年m ²						
LCCO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /年m ²	kg-CO ₂ /人時	kg-CO ₂ /年m ²						
LC廃棄物量	t/年m ²	t/人時	t/年m ²						
LC資源消費量	t/年m ²	t/人時	t/年m ²						

(3-2) デザインプロセスの評価

設計段階	建設段階
有資格者による設計	環境管理計画

凡例
備考

Q: Quality L: Load LR: Load Reduction SQ: Score of Q category SLR: Score of LR category
注1: 当該対象区における標準的な計画の得点が3点。NAは評価対象外とした項目を示す。敷地選定に関わる評価は対象外。
注2: Qは、環境品質・性能(Q)のスコアSQ(Q-1、Q-2、Q-3のスコアにそれぞれの重み係数を乗じた合計値)から算定。
Lは、環境負荷低減性(LR)のスコアSLR(LR-1、LR-2、LR-3のスコアにそれぞれの重み係数を乗じた合計値)から算定。
注3: (3)の評価はオプションとし、実施設計段階および竣工段階で可能な範囲で記入する。

BEE: Building Environmental Efficiency